

議会だより

平成27年 3月

No.82

# あっさぶ

題字は、館保育所 くま組の藤島響くんです。  
ふじしまひび



1月18日(日)町民交流センターで行われた第20回新春町内鹿子舞交流会



**STOP!! ジャガイモシストセンチュウ**

~日本一のブランド「あっさぶメーカー」を守ろう!~



# 多面的機能支払交付金事業負担金など

## 2億3035万6千円を補正 一般会計総額 42億296万5千円

第4回定例会が12月8日招集され、補正予算等19件を審議し、いずれも原案どおり可決しました。

### 補正予算

### 一般会計

歳入歳出それぞれ2億3035万6千円を追加し、総額42億296万5千円となりました。

事務事業確定と今後の所要見込額を勘案し、各項目の増減調整が図られています。追加補正された主なものは次のとおりです。

- 財政調整基金積立金 (4400万円)
- 公共施設整備基金積立金 (1億8000万円)

- 北海道後期高齢者医療広域連合負担金 (1204万6千円)

- 環境保全型農業直接支払交付金 (129万2千円)

- 多面的機能支払交付金事業負担金 (219万2千円)

- うずら温泉指定管理委託料 (600万円)

- 小学校管理工事請負費 (227万8千円)

### 質疑応答 (要旨のみ)

問 乙部厚沢部線工事移転補償費と町有地売却収入について

答 新町信号交差点から赤沼橋までの道道を拡幅するための工事で、26年度整備分の旧公民館跡地約50m分の移転補償費と町有地売却収入です。28年度で完成の予定となっております。

問 ふるさとづくり基金寄附積立金について

答 ふるさと寄附金として寄附されたものについて、その年度の基金に積み立て、翌年度以降の事業に活用していきます。また、50000円以上寄附された方には、当町の特産品を贈呈しています。

問 生活排水処理施設整備事業費補助金の減額補正について

答 件数は40戸で、浄化槽が当初計画より小さくなったため減額になりました。普及率は39%となっています。

問 多面的機能支払交付金事業負担金について

答 今年度から、多面的機能支払、中山間地域等直接支払、環境保全型農業直接支払の3制度を日本型直接支払制度に移行しました。対象条件は農業者の団体組織（各水利組合など）で、財源内訳は国が2分の1、道と町が残りの2分の1になっています。

問 スノーモビル借上料及び有害鳥獣駆除用備品購入費について

答 冬期間に鹿の捕獲を行うためのスノーモビル借上料とそれを現地まで運搬するためのトレーラー等の備品を購入します。

## 国保会計

交付金等過年度精算還付金など1499万8千円を追加し、総額6億8565万7千円となりました。

## 後期高齢者医療会計

北海道後期高齢者医療広域連合負担金の確定に伴い439万7千円を減額し、総額6379万6千円となりました。

## 介護保険会計

人事院勧告に基づく職員給料など12万3千円を追加し、総額6億4822万8千円となりました。

## 簡易水道会計

水道管理維持修繕料など101万円を追加し、総額1億3253万2千円となりました。

## 農業集落排水会計

事務事業確定など53万1千円を減額し、総額1億334万1千円となりました。

## 国保病院会計

収益的収入及び支出について、人事異動及び4月から10月までの医師1名不在に係る人件費など2724万8千円を減額し、予定額4億9464万4千円となりました。

## 条例

●厚沢部町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定

●特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定  
以上の2条例は、人事院勧告に基づき職員等の手当を改正しようとすることに伴い、一部改正するものです。

●職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定  
人事院勧告に基づき職員の給料及び手当の一部を改正しようとするものです。

●重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定

●障害程度区分認定審査会の委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の制定  
以上の2条例は関連する法律の改正に伴い、それぞれ文言を整理しようとする一部改正です。

●国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定  
出産育児一時金の額を増額しようとする一部改正です。

●平成26年度厚沢部町一般会計補正予算（第6号）の専決処分の承認

## 議員派遣

●函館厚沢部会総会  
目的 意見交換、交流  
場所 函館市  
期日 2月1日  
派遣議員 佐々木宏

●山崎 孝  
只野 勲

●檜山管内議会議員研修会  
目的 分権時代に対応した議会の活性化及び議員の資質向上を図る  
場所 今金町  
期日 2月5日  
派遣議員 全議員

●東京厚沢部会総会

目的 意見交換、交流  
場所 東京都  
期日 3月15日  
派遣議員 鈴木祥司  
伊藤克博  
浜塚久好

## 承認

## 規約

●渡島・檜山地方税滞納整理機構規約の変更

## 各会計補正予算額一覧表

会計名	区分	補正額	補正後の額
一般会計		2億3035万6千円	42億296万5千円
国民健康保険事業特別会計		1499万8千円	6億8565万7千円
後期高齢者医療特別会計		△439万7千円	6379万6千円
介護保険事業特別会計	保険事業勘定	12万3千円	6億4822万8千円
簡易水道事業特別会計		101万円	1億3253万2千円
農業集落排水事業特別会計		△53万1千円	1億3334万1千円
国民健康保険病院事業特別会計	収益的支出及び収入	△2724万8千円	4億9464万4千円

## 意見書を提出しました

第4回定例会で意見書2件を原案どおり可決し、関係省庁に提出しました。(内容省略)

- ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書  
提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣
- 年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用に関する意見書  
提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣

# 一般質問

～聞いてみたい、こんなこと～

問 ① 本年の農家経営のマイナス懸念の対応策は。  
② 新しい経営的感覚を備えた後継者育成方策は。  
③ 地方の維持向上対策強化の考えは。  
④ 農産物の付加価値を高めるための考えは。  
⑤ 農業者の連携意識を高揚させる、やる気の喚起策は。



佐々木議員

### 質問 1

やる気ある農業者への誘導策は

佐々木宏 議員

い 今後とも様々な関係機関と連携しながら支援していききたい

渋田町長

答 ① 経営所得安定対策交付金や共済金、さらには町からの補助金などがあり、全体的には平年並みであったと評価しています。  
② 今後も自らの経営感覚を磨き、責任と判断で営農していただき、関係機関と連携しながら情報交換や研修機会の提供に努めていきたい。  
③ これまでも堆肥投入や基盤整備などに助成しており、今後も補助制度を活用しながら取り組んでいきたい。  
④ 国が推進する6次産業化や農商工連携事業の活用を検討するとともに、付加価値を高めて有利販売の可能性を模索しながら関係機関との連携を密にしていきたい。  
⑤ 農業者の連携は厚沢部農業の維持、発展につながる重要なことであり、各種の部会、生産組合のこれまで以上の活動に期待し、行政としても、研修会等への情報提供に努めていきたい。



問 ① 町内での購買力の低下や景気が悪化する中で、現状の支援策は。  
② 商工企業者設備投資促進支援事業創設の考えは。

### できる範囲で支援

質問 2 商工企業への支援策は

答 ① 中小企業振興資金融資制度やプレミアム商品券に対する支援をしています。  
② 町財政を取り巻く環境は厳しさを増しており、新たな事業創設は慎重にならざるを得ない状況です。

# 渋田町政3期目は

中山俊勝 議員

## 町のさらなる成長を目指し 再度挑戦

渋田町長



中山議員

問 渋田町政の2期目も残り少なくなってきました。次期に向かつて町長は自らの進退をどう考えておられるかお伺いします。

答 私はこれまで行財政改革を進め、国や道に先駆け子育て3点セットを実行、基幹産業の農業では基盤整備を積極的に推進するなどの事業を展開してきました。その効果は確実に出ておりますが、まだ道は半ばであるとも思っています。国は27年度から地方の弱体化を防止するため、積極的な自治体には進んで支援するという「人口減少克服・地

方創生」政策を打ち出しました。我が町も積極的にこの政策に取り組み、人口減少を抑え、町の発展を進めていかなければなりません。そのため、これまで培ってきた実績と自らの知識・経験・人脈を十分に生かし、さらに我が町が発展していくことに尽力できるよう、来る統一選挙には再度挑戦をしたいと考えております。

問 力強い立起の表明がありました。大いに期待したいと思います。それではその表明を受け、今後の取組みをどうするのか、以下についてお聞きします。

### 再質問

①定住促進について

- ②農業振興について
- ③子育て支援について
- ④町営住宅建設について
- ⑤老人福祉対策について
- ⑥空き家・廃屋対策について
- ⑦素敵な過疎のまちづくり株式会社について

答

①若者定住の特効薬として企業誘致があります。業種の枠を広げ、さらに積極的に取り組んでいきます。また国は「まち・ひと・しごと創生本部」を設立、約70の事業を束ねた政策パッケージを提示する予定です。この内容を吟味し、併せて現在取り組んでいる移住交流事業の進展や地域おこし協力隊の定住化に向け、具体的な対策を講じていきます。

②まず、生産基盤の整備と基幹作物の生産性向上、担い手への農地集約に積極的に取り組んでいきます。また、生産野菜の6割といわれる規格外作物対策として、諸外国も含めた販路の拡大とそのための方策は、伏せ込みアスパラ等のハウス栽培があります。が、経費負担の少ない熱源が確保できれば可能であり、この対策を何としてもやっつけていきたいと思っています。

③これまでも医療費、学校給食費、保育料で他の町に先駆け支援をしてきました。これからは今後も継続していきます。保育所については3保育所とも老朽化しており、早期に幼保一体となる「認定こども園」の設置を実現したいと思っています。

④町営住宅は、緑町に4棟8戸の新築を計画しており、老朽化した施設の建替えも順次行っています。また、公営住宅だけでは数に限度があるため、民間による賃貸住宅の建設を補助要綱等を整備して積極的に促していきたいと考えています。

なる充実強化の必要があると考えています。また「在宅介護」の考え方は国の施策でもあり、国保病院の訪問医療体制はさらに強化していきたいと思っています。

⑤介護を必要とせず、問題なく生き生き暮らすことのできる期間のことを「健康寿命」といいます。これを延ばすためには、普段から食生活に気を配り、定期的に検診を受けながら生活習慣病にならないよう指導体制を構築することが大事です。そのため、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」のさら

⑥先の臨時国会で「空き家対策法」が成立し、春までには基本方針と倒壊する恐れのある危険な「特定空き家」を判断するガイドラインが示される予定です。示され次第町の対策方針も決めていけるものと考えています。

⑦当会社は「移住交流推進事業や交流イベントの企画運営、農産物の販売、まちづくり推進等」を民間的発想を基本とし、行政に代わって、より機動的に進めるために起したもので、これらの事業を実践してきました。国の地域創生計画がでた時には、さらに役割が増すものと思えますし、今後はこれまでの検証を行いながら、厚沢部版総合戦略の推進に貢献できるように、運営の充実・強化を図り、特に民間的発想の企画力や販売に当たる行動力等をもっと生かしていきたいと思っています。

質問 1

臨時福祉給付金について

加藤古志男 議員

申請日の延長及び説明会を実施

洪田町長



加藤議員

問 ①9月30日現在の申請者数は。

②地域での説明会と申請受付人数は。

③最終締切日と申請者数は。

答 ①申請者数478人です。②10月22日に館、鶉の両センターで行い、館地区は18人、鶉地区は2人です。また、10月中に保健福祉センターで80人が申請しています。③締切日は10月31日で申請者数は590人です。

質問 2

住宅リフォーム助成事業について

問 住宅改修に対する補助制度実施の考えは。

公平感を考え、慎重に対応を

答 リフォーム等の住宅改修の需要を促すことは、地域経済の活性化に一定の効果は生まれると考えられるが、一般住宅は個人資産であり、公平感を考えると、より慎重に対応することが必要と考える。持家建設促進奨励金及び合併浄化槽の助成は継続予定で進めています。さらなる助成対象事業の拡大は難しい。

質問 3 学力テストの公表について

問 ①椴山管内の平均正答率はこの町の正答率ですか。

②学力テストの公表についてどのように考えていますか。③道教委から公表するよう強い指導はありましたか。④道教委から授業の改善が必要とありますが、具体的にどのような内容ですか。

公表には同意しておりません

中井教育長

答 ①管内7町すべての小学校6年生、中学校3年生全員の成績が含まれています。②小規模校が多く児童生徒の成績が特定される恐れも生じることなどから、公表には同意しておりません。③同意を求められましたが、同意していません。④授業の改善と生活習慣の改善を両輪として位置づけており、正答数の少ない児童生徒の割合が全国的に下位にあり、そこを改善することに重点的に取り組むことを強調しています。チャレンジテストの実施、指導主事の活用、ICT機器の活用、習熟度別学習や少人数指導等の改善が挙げられます。

質問 1

洪田町政の総括と評価、3期目に対する姿勢は

山崎 孝 議員

これまでの施策は間違いない

洪田町長



山崎議員

問 町長はマニフェストとして4点提示されました

①基幹産業の再編、②少子高齢化対策、③商工業、観光事業の拡充、④町財政運営の健全化、この4点を振り返っての総括と評価、併せて3期目に対する姿勢は。

答 ①基幹産業の再編は、国の農業政策を見定めながら農業予算も年々増加し、強い農業をつくるための政策を進めてきました。②少子化対策では全道・全国に先駆けて、中学生までの医療費無料化や保育料・学校給食費の補助、高齢化対策は、

多くのサービス体制で全道の対策を講じています。

③商工業・観光事業の拡充については、商工会組織の総合的の改革を求め、商工会・商店会自らの事業により会員の連携が大事であり、街路灯LED化事業や町外アンテナショップ事業の取組みも始まったところです。観光事業は、教育観光として多くの大学や修学旅行を受け入れ、滞在者の増加や移住交流も積極的に取り組んでおり順調に推移しています。

④町財政の健全化については、この4年間で基金の増額、町債の減少など、町財政は更なる健全化が図られました。町の財政規模からみて、これまで進めてきた方策は間違いないと思っています。3期目のマニフェストにつ

いては数多くありますが、最重点とするものは国の方向をみながら決定します。

## 質問2 人口減少下での当町の成長戦略について

問 過疎化、少子高齢化対策について長期間重要課題として取り組んできましたが、未だ人口減少は止まらず成果が実感できません。国は「やる気のある志の高い自治体」を地方創生特区に指定、市町村が策定する総合戦略に基づいて国が支援するとあります。人口減少下での当町の成長戦略をどのように認識し、策定するのか。

### 人口増につなげる施策や公益的施設の整備を

答 「地方創生」の取組みは少子高齢化や人口流出など極めて厳しい状況にある町村にとって新たな展望を拓くものとして共感・期待できる政策展開です。当町は自らが知恵を絞り、人口動態を含む地域の分析を行い、取り組むべき政策と具体的な実行策を企画・立案し、やる気差を見せながら議会、住民と一体になって実施していく決意です。また、人口増につなげる施策や公益的施設の整備により、率先した取組みを将来を見据えて取り組んでいきます。

## 委員会活動状況

月日	委員会名	出席委員数	活動内容
12	4 議会運営委員会	4名	第4回定例会について
	10 総務文教常任委員会	6名	議会報告会について
	10 産業厚生常任委員会	5名	議会報告会について
	10 議会改革推進特別委員会	11名	議会改革に関する調査・研究
1	15 議会広報編集特別委員会	3名	広報No.82号の編集について
	20 総務文教常任委員会	6名	議会報告会について
	20 産業厚生常任委員会	5名	議会報告会について
2	4 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.82号の編集について
	13 総務文教常任委員会	6名	第4回所管事務調査
	18 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.82号の編集について
	23 議会改革推進特別委員会	11名	議会改革に関する調査・研究

# 委員会活動

総務文教・産業厚生各常任委員会で行った所管事務調査の内容をお知らせします。

## ○総務文教常任委員会

第2回調査日 10月23日  
第3回調査日 11月25日

### 【第2回調査】

#### 1. 公共施設老朽化の状況について

集会施設、町営住宅の老朽化状況について資料により説明を受け、築年数44年を経過している南館町会館、城丘・新築生活改善センターの3施設、及び「政策空き家（古くして入居させられない住宅）」3団地の現地確認を行った。集会施設について、現地確認を実施した3施設はいずれも老朽化が激しく、近い将来の取り壊しが必要と思うが、今後の方策については地域と十分な協議を行い、地理的な条件も考慮した上で決定すべきと考える。

町営住宅について、昭和45年から51年に建設された住宅で、老朽化のために入居募集を停止している政策空き家が

18戸あるとの説明を受けた。老朽化した住宅の解体については、入居者全員の退去をもって行うべきであるが、全員が退去するまでの期間は、町が責任をもって空き家周辺の草刈りを行う等、環境の整備が必要と考える。

#### 2. 学校のトイレ改修状況と付帯施設管理状況並びに学校給食の実態について

町内小中学校の洋式トイレへの改修状況について資料により説明を受け、鶉小のトイレ改修状況及び付帯施設の状態について現地確認を行った。また、実食により学校給食の実態を確認した。

学校トイレについて、本年度、厚沢部小・鶉小・館小・厚沢部中・鶉中の5校で計18台の改修が行われ、町内小中学校における洋式トイレへの改修割合は44パーセントになるとの説明を受けた。現状で、全ての学校において洋式便器

が設置されている状況にあるが、今後も各校ニーズを把握の上、引き続き残された和式便器の洋式化について検討していく必要がある。また、洋式化と併せたウォシュレットの取り付けも検討すべきと考える。

物置（屋根や扉）や浄化槽施設（蓋）等の付帯施設については、児童・生徒の安全確保及び防犯管理上、きめ細やかな補修対応が望ましい。学校給食について、鶉小児童と一っしよに給食をとり、献立の確認や児童から感想の聞き取りを行った。給食は子どもたちに好評であり、献立等も評価できる内容であった。



鶉小児童と給食

### 【第3回調査】

#### 3. 中学校の統合について

学校再編に係る保護者説明会（館・鶉地区）の内容と今後の取組予定、生徒数の推移、管内各町のスクールバス運行状況等について資料により説明を受けた。教育委員会の基本的な考え方は、鶉中、館中とも今後の生徒数が10数名で推移し、学級集団として正しい意味での競争心や協調性が育ちにくい環境にあることから、厚沢部中との1校統合が望ましいという考えであり、今後はその考えにそった学校再編を検討していくべきである。再編を進める過程では、校舎をどうするのか、スクー



厚沢部中学校

ルバスや部活への対応はどうなるのか、統合によって保護者の新たな負担は発生しないのかなど具体的な統合プランを示し、PTAや地域との密な話し合いの下で慎重に進めていくことが望ましい。また、学ぶ者の意見として、統合に関して在校生徒の意見を聞いてみることも良いのではないか。

#### 4. 空き家・廃屋の実態と対策について

町内における地区別の空き家件数と建物の状況について、資料により説明を受けた。

本年度、新たに町内会長の協力を得て行った「空き家調査」の結果によると、町内には144件の空き家が存在しているとのことであり、今回の調査によって得られた結果を基礎データとし、今後の空き家活用や廃屋対策に有効活用されていくことを望むものである。今後は、空き家の所有者や管理者を把握すること、活用可能な住宅については「空き家バンク制度」を創設するなどして今後の活用対策を検討していくべきであり、廃屋については適正な管

理が行われず保安上危険となるおそれがあるような場合には早急な指導・助言等が行える体制を整備することが必要と考える。また、空き家対策の推進に関する国の法制化を受け、今後当町においても関係条例の整備に向けて検討すべきと思われる。

#### ○産業厚生常任委員会

第1回調査日 7月10日  
第2回調査日 8月11日  
第3回調査日 11月10日

#### 【第1回及び第3回調査】

##### 1. 農林商工業における花嫁対策について

平成26年8月30日、31日実施の婚活支援事業の実施概要と結果について説明を受けた。参加募集地域を平成25年度に実施した名古屋から札幌に変更し、女性16名、男性12名（農業・商工業より2名）が参加、事前のイメージアツプセミナー開催などの効果によりカップル6組成立の成果があった。本事業は町内独身男性に女性との出会いの場を提供するものであり、後は参加者の努力に期待するものである。本事業は素敵な過疎づ

くり株式会社を中心となって行っているが、事業本来の目的である農林商工業従事者からの参加が少なく、事業継続の必要性については農協、商工会等を含めた検討会や協議会を開催し、事業への参加者増加に向けた方策の検討が必要と思われる。併せて農業委員会等による参加対象者の絞り込みや、参加希望者のプロフィール等の作成、ホームページ活用による情報発信等の新たな手法も必要と考える。

##### 2. 国保病院の運営状況及び今後の体制について

管理運営体制、給与状況、勤務体系、職員配置、当直体制等の運営状況について説明を受ける。

町民の受診割合は低く、経営の実態は医業収益が依然と低く、町の一般会計からの繰入で収支バランスを保っている。11月より念願の医師3人体制が確保され、入院患者増に向けた取組みを含めた新たな運営方針を策定し、収益確保に結び付く体制整備を望む。国では高齢化に対応した在宅医療の重要性を掲げており、院長を中心とした新体制では



病院にて聞き取り調査

「町民に親切でやさしい病院経営」を目指しており、コンプライアンス確保や医療サービスの向上を図るため専門機関の研修プログラム活用による経営改革が必要である。また、受診者増のための病院からの情報発信、通院の利便性向上に向けた送迎（高齢者事業団委託分）の在り方の改善も必要である。看護師の体制は15対1で行っているが、看護師募集に苦勞している状況であり、人材確保に向けて、奨学金制度の充実を含めた新たな方策を立ち上げる必要性があると思われる。以上、町民の安心確保、信頼される病院への移行に職員一丸となって

取り組むことに期待する。

### 【第2回調査】

#### 3. 上里老人福祉センターの今後について（現地調査）

当センターについては、期成会（上里町内会）より早期建て替え建設の要望を受けて調査を実施した。温泉利用状況と管理経費等について、年度別に説明を受ける。同施設は建設から40年を経過しており、入浴者数の推移は平成元年の26、698人をピークに毎年減少し、現在ではピーク時の約4分の1となっている。現地調査を実施したところ、娯楽室の天井に数多くの雨漏り発生の跡が確認され、修繕をしても改善されない状況になっている。また、ボイラーは平成8年に交換したものを使用しており、浴室のタイル等を含めて老朽化が顕著な状況であった。施設の使用状況については、地域の葬儀や老人クラブの例会、バレーボール大会の宿泊会場等で活用されている。高齢化が進む中では入浴施設の確保は必要であり、地域コミュニティを考え合わせたときに、有利な補助金活用等による改築が望

まれる。

#### 4. うずら温泉チップボイラーの稼働状況について（現地調査）

チップボイラー導入に係る総事業費や補助事業名、メーカーや使用燃料等のボイラー概要について説明を受け、ボイラー稼働状況の現地調査を行った。完成したボイラー施設は立派なものであり、チップボイラー導入による経費の比較によると重油1リットル93円、チップ1キログラム15円の単価では年間53万円ほどの経費節減が見込まれている。また、チップサイロ増設により使用する燃料が、熱量



うずら温泉チップボイラー現地調査

の高いカラ松材のみのチップになることから高カロリーな熱源が確保される見込みである。今後は、施設利用者等に不便をかけないようなボイラー等の管理体制の強化を期待する。

#### 5. 中館地区水道管の現況について（現地調査）

中館地区水道の断水が頻繁に発生し、生活に支障をきたしているとの申し出を受け、中館町内会長の同行のもと調査を実施した。

平成25年、26年で9回の漏水が発生しており、内容については継手接続部からの漏水5か所、本管のひび割れからの漏水2か所、分水栓と本管の老朽化による漏水2か所で、いずれも修復については短時間で工事を完了しているとの説明を受けた。当町の水道管は延長134キロメートルあり、そのうち33キロメートル（23パーセント）が敷設より35年以上経過して、経年劣化による老朽化が進んでおり、その中に中館地区も入っている。また、町内には昭和38年敷設で50年経過している所もあり、人口減少が続く中

ではあるが、水道は重要なインフラであり、水道設備全体に係る改修計画等を立案する必要がある。

### 【第3回調査】

#### 6. 町有林及び新設林道の管理状況について（現地調査）

町有林の管理状況について過去3か年の計画・実績、樹種、販売価格等と新設林道工事状況について資料説明を受け、現地調査を行った。

造林、下刈、除間伐、枝打事業については年度予算に基づいて計画立案のもと進めており、国の補助事業も活用している。収支実績は補助金（総事業費の68パーセント）と素材売却収入等により採算確保を図っており、利益のある年度もみられる。林業専用道清水線については、全線完成した状況を調査した。今後は専用道活用による行き届いた町有林の管理と森林整備を望むものであるが、前年度に完成した盛土法面に決壊防止のためのブルーシートが見られ、早急な改善が必要と思われる。また、民有林の作業道に対する補助事業活用による維持管理も必要と思われる。

1月28～30日3地区で開催された議会報告会の内容については、今後の臨時号でお知らせします。

## まちの議会を傍聴してみませんか

町政はあなたのために

次の定例会は3月4日（水）からです。

[ 一般質問開始予定：4日 午前10時20分頃～ ]

手続きは、議会事務局備え付けの傍聴者名簿に住所・氏名を記入するだけです。

# 平成26年 厚沢部町議会議員出席状況一覧表

(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

委員会		総務文教						産業厚生				議長			
		中山 俊勝	加藤 吉志男	高田 一弥	松村 松雄	只野 勲	伊藤 克博	小野 則昭	浜塚 久好	下川 部洋伸	山崎 孝		佐々木 宏		
第1回定例会	3月6日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	3月7日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	3月10日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	3月11日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	3月12日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
第2回定例会	6月17日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
第3回定例会	9月3日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	9月4日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	9月5日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
第4回定例会	12月8日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	12月9日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
臨時会	第1回	3月26日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	第2回	4月8日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	第3回	4月15日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	第4回	10月31日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
各常任委員会活動状況			○	○	○	○	○	○						○	
			○	○	○	○	○	○							○
			○	○	○	●	○	○							○
			○	○	○	○	○	○							○
			○	○	○	○	○	○							○
									○	○	○	○	○	○	○
									○	○	○	○	○	○	○
									○	○	○	○	○	○	○
									○	○	○	○	○	○	○
									○	○	○	○	○	○	○
特別委員会	予算審議	3月10日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		3月11日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		3月12日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	決算審査	9月4日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		9月5日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	議会広報編集	1月30日			○	○									
		2月6日			○	○									
		2月17日			○	○	●								
		4月15日			○	○	●								
		4月23日			○	○									
		5月15日			○	○									
		5月22日			○	○									
		7月14日			○	○									
		7月31日			○	○									
		8月18日			○	○									
		10月14日			○	○									
	10月31日			○	○										
	11月18日			○	○										
議会改革推進	6月17日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	6月18日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	7月24日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	8月26日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	9月8日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	10月14日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	11月20日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
12月10日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
議会運営委員会	3月3日	○	○	○					○	○			○		
	3月26日	○	○	○					○	○			○		
	4月8日	○	○	○					○	○			○		
	4月15日	○	○	○					○	○			○		
	6月12日	○	○	○					○	○			○		
	8月29日	○	○	○					○	○			○		
	10月31日	○	○	○					○	○			○		
12月4日	○	○	○					○	○			○			

○出席 ▲欠席(公用) ●欠席(葬儀、病欠、私用)

## 編集後記

1月28日～30日の3日間、3回目となる議会報告会を行い、参加者は全体で86人と、これまでよりも少しですが多くの方に集まってくれました。

我々の報告も今回は全員で分担、担当制で行いました。また、前回までの報告会での課題や指摘された主な事項については対応と報告を行っています。委員会調査や一般質問にも生かさせていただきます。

開かれた議会と活動の活性化、議員一人一人の資質の向上を目指し、これまで報告した以降の内容としては、「議会改革推進特別委員会の設置」、「議会基本条例の先進町視察と意見交換会」、「議会たよりのホームページ公開」と、ソフト面の対策が主ではありますが行いました。少しずつですが実を結んできていると思います。

報告会の中で「議会基本条例」を作れという指摘は常にあります。しかし、私達全員に一致した考えは、性急に形だけを整えるのではなく、中身の伴った改革をじっくりと醸成させていくというものでした。

3月定例会にはこれまでの取り組み内容の報告をし、一段落とし、残った課題と対策は新しい議会構成員の皆さんに委ねる事になります。

議会広報編集特別委員会  
委員長 高田 一弥  
副委員長 浜塚 久好  
委員 松村 松雄  
委員 下川部 洋伸

(た)